

日本人も歩み寄ることが必要

塩津日本語教室 代表 三浦 嘉子

教員を退職後、困っている外国人を助けるため、先輩と一緒に塩津教室を立ち上げました。自分のできることからやってみようと思ったのがきっかけです。最初は心が通わずにうまくいかないこともありました。しかし、相手とコミュニケーションをとることで、より日本語を覚えてくれるようになり、相手を知ることの大切さを実感しました。言葉の壁を越えること、そして夢を叶えるお手伝いをするのが今の活動目標です。

外国人の方は、仕事に一生懸命取り組みます。また、意欲的で優秀な人も多く、大学に進学する人や教師になる人もいます。その頑張りには本当に素晴らしいです。

私が思う理想の多文化共生社会は、一人ひとりが自分の考えを持ち、自分の夢を叶えられることです。そのためには、「日本にいるのだから日本のルールにすべて従いなさい」と考えるのではなく、日本人も歩み寄ることが必要です。まずは積極的に接すること、そして外国人も市民の一員として、優しく受け入れることが必要だと思います。もちろん外国人も守るべきルールには関心を持って努力することは必要です。ただ、共通して言えることは、お互いに文化や習慣を理解しようとする姿勢が大切ということです。

ともに幸せに生きる方法を考えていきたいですね。

多文化共生

みんなが暮らしやすいまちづくり

4%

これは、4月1日時点で外国人市民の割合です。人数は10年前と比べると、1.5倍に増えています。外国人市民の増加が進む中、言葉や文化の違いから、戸惑いや不安を感じることもしょなくありません。同

じ市民として共に生きていくために、「多文化共生」について考えてみませんか？
今回は、日本語教室の先生と教室に通っていた生徒、多文化共生に取り組む2人にインタビューしました。

☎ 0183798

協働まちづくり課 ☎ 66-1179



「多文化共生」とは、国籍や民族の違う人々が、お互いの文化を尊重し合い、対等な立場を築きながら、共に生きることです。

多文化共生社会の実現を目指すため、

多文化共生推進プランを

3月に策定しました！



基本理念

「お互いを認め合い ともに生きるまちがまごおり」

基本施策

- ① コミュニケーションのサポート
- ② 日常生活のサポート
- ③ 意識啓発と社会参画・多文化共生の地域づくり